

[24] キャンプ用テント品質基準(1/4)

1. 表示事項

○: 必須

表示事項	適用規格	判定基準	特例判定基準及び備考
○ アウターテント、インナーテントの生地組成	家庭用品品質表示法準拠	表示が適正であること	
取扱い上の注意		表示が適正であること	・SG基準(CPSA0100)
○ 表示者名		表示が適正であること	
サイズ		表示が適正であること	・SG基準(CPSA0100)
○ 原産国	不当景品類及び不当表示防止法	表示が適正であること	
○ 質量		表示が適正であること	収納袋に入れた状態での総質量を記載
その他の表示		表示が適正であること	

2. 製品検査

試験項目	試験方法	判定基準	特例判定基準及び備考
○ 外観・縫製	—	異常がないこと	・SG基準(CPSA0100)
○ 寸法	SG基準(CPSA0100)	1人当り 就寝部寸法 (下記寸法以上であること) R形: 長さ 205cm、幅 70cm T形: 長さ 200cm、幅 65cm S形: 長さ 200cm、幅 60cm 共通: 測定高さ: 5cm	テント分類はSG基準(CPSA0100)に従う R形: 居住目的(長期間)とした宿泊テント T形: 旅行目的とした宿泊テント S形: 小型宿泊(就寝)を目的としたテント 標準: 質量が2.5kgを超えるテント 軽量: 質量が2.5kg以下のテント 以下同様
		就寝部高さ R形: 就寝部30%以上が170cm以上 T形・S形: 1~2人用 1体設置可 3~4人用 2体設置可	・SG基準(CPSA0100)に定める人型模型を使用
		就寝部グランドシート ます形構造で縁部の高さ10cm以上であること	
○ 構造	ISO 5912	換気構造を有すること	・S形: 1人につき100cm ² 以上の開口部が2つ以上あること ・T形、R形: 常時、結露を減少させるために空気が循環する構造であること
		グランドシートは各コーナーに裾止を有すること	・インナーテントに幅200cm以上の出入口を有する場合は、直接接地面との固定が可能なこと
		ファスナーはエレメントとテープの色は異なり、スライダーが目立ちやすいこと	・出入口を開閉するためのファスナーは内側用と外側用の2つのスライダーを有し、内外どちらからも開閉できること
		張り網の通し部のはと目は、下記張り方向の強度に1分間耐えられること R形 400N T形 350N S形 300N (250N)	・ばねばかりのフックをはと目に掛けて測定 ・S形()内は軽量テントに適用
		T形、R形は誤った組合せのフレーム組み立てが出来ないような構造になっていること パイプ状フレームは最低でも外径の3倍以上の接続部長さを有すること	・パイプ状フレームの接続部長さ基準は、S形、T形、R形ともに適用

[24] キャンプ用テント品質基準(2/4)

3. 素材確認

試験項目	試験方法	判定基準	特例判定基準及び備考
混用率 (繊維、素材鑑別)	JIS L 1030 他	—	・組成表示がある場合は、組成表示に適合していること

4. 染色堅ろう度

試験項目	試験方法	判定基準	特例判定基準及び備考
○ 耐光	JIS L 0842 第3露光法	3-4級以上	・アウターテント生地に適用
水	JIS L 0846	変退色 4級以上	
		汚染 4級以上	
摩擦	JIS L 0849 II形	乾燥 4級以上	
		湿潤 3級以上	

5. 物性および安全性

試験項目	試験方法	判定基準	特例判定基準及び備考
○ フレーム曲げ強さ	SG基準(CPSA0100) 荷重: R形 100N T形 81N フレーム末端を固定し、長さ100cmの点に上記荷重を掛け、10分間放置	異常がないこと	・R形、T形に適用
○ 裾止め部の引張強さ	JIS L 1096 B法 引張速度: 100mm/min 試料幅: 50mm	R形 500N以上 T形・S形 350N以上	
○ 耐降雨性	SG基準(CPSA0100) 降雨量60mm/hr 降雨時間60min 水圧300~400kPa	アウターテントの屋根部がインナーテントに接触せず、テント内に漏水がないこと	・高架式グリッド型スプリンクラー装置使用(ISO5912準用)
○ スライドファスナー	JIS S 3015	JIS S 3015 に規定する性能を満たすこと	実試験での評価の他、使用材料明細書(性能評価書、エビデンスなど)により確認可
○ 生地への引張強さ	JIS L 1096 A法 試料幅: 50mm つかみ間隔: 200mm 引張速度: 150±10mm/min	R形 屋根部 1000N以上(皮膜有) 700N以上(皮膜無) アウターテント 850N以上(皮膜有) 600N以上(皮膜無) インナーテント 300N以上 T形 屋根部 850N以上(皮膜有) 700N以上(皮膜無) アウターテント 800N以上(皮膜有) 500N以上(皮膜無) インナーテント 300N以上 S形 屋根部 500N以上(標準) 400N以上(軽量) アウターテント 500N以上(標準) 400N以上(軽量) インナーテント 300N以上	

[24] キャンプ用テント品質基準(3/4)

5. 物性および安全性(続き)

試験項目	試験方法	判定基準	特例判定基準及び備考
○ 生地 of 引裂強さ	JIS L 1096 C法(トラペジウム法) 準拠 試料幅50mm×試料長230mm つかみ間隔: 100±1mm 引張速度: 100mm/min	R形 屋根部・アウターテント 45N以上(皮膜有) 40N以上(皮膜無) T形 屋根部・アウターテント 40N以上(皮膜有・無) S形 屋根部・アウターテント 30N以上(標準・軽量)	
○ 耐水圧	JIS L 1092 (ISO811)	R形・T形: 屋根部・アウターテント 20kPa (2040mm)以上 グランドシート 30kPa (3060mm)以上 S形(標準): 屋根部・アウターテント 20kPa (2040mm)以上 グランドシート 30kPa (3060mm)以上 S形(軽量): 屋根部・アウターテント 15kPa (1530mm)以上 グランドシート 30kPa (3060mm)以上	
○ 生地 of 縫合部強さ	JIS L 1093 A-1法	生地 of 引張強さ基準値の50% 以上を満たすこと	
難燃性	JIS L 1091 A-1法(質量450g/m ² 以下) A-2法(質量450g/m ² 超) [前処理] 温水浸漬処理 50±2°C×30min 乾燥処理 50±2°C×24hr シリカゲル入デンケータ 2hr以上	燃焼面積 A-1: 30cm ² 以下 A-2: 40cm ² 以下 残炎時間 A-1: 3秒以下 A-2: 5秒以下 残じん時間 A-1: 5秒以下 A-2: 20秒以下	熱収縮するものは、防災協会防災製品 基準の45° たるませ法に準拠 [前処理] 温水浸漬処理 50±2°C×30min 乾燥処理 50±2°C×24hr シリカゲル入デンケータ 2hr以上 JIS L 1091 A-1法、A-2法 に準拠し、 試料をたるませて45° に取り付け [判定基準] 炭化長 20cm以下

[24] キャンプ用テント品質基準(4/4)

5. 物性および安全性(続き)

試験項目	試験方法	判定基準	特例判定基準及び備考
耐候性	①JIS L 0891 A法 (キセノンアーク灯) 180W/m ² (300~400nm) 曝露時間 120hr 降雨サイクル 18min/120min ②JIS L 0891 B法 (サンシャインカーボンアーク灯) 78.5W/m ² (300~400nm) 曝露時間 270hr 降雨サイクル 18min/120min	屋根部、アウターテント 生地の引張強さ基準値を満たす こと	・屋外曝露3か月分の紫外線エネルギー 量 77MJ/m ² (300~400nm)に相当
耐食性	JIS H 8502 7.1 (中性塩水噴霧試験法) 塩化ナトリウム濃度: 50±5g/l (pH: 6.5~7.2) 噴霧量: 1.5±0.5ml/80cm ² /hr 試験槽内温度: 35°C±2°C 塩水タンク温度: 35°C±2°C 空気飽和器温度: 47°C±2°C 圧縮空気圧力: 70~167kPa 試験時間: 24hr	目視により、錆の発生が認めら れないこと	・海岸地域での屋外曝露1か月に相当 ・実試験での評価の他、使用材料明細書 (性能評価書、エビデンスなど)により確 認可

6. 機能性

試験項目	試験方法	判定基準	特例判定基準及び備考
遮熱性	テント型フレーム (W30cm× D30cm×H20cm)に生地を取り 付け、ブラックパネルを置いた断 熱材の上に設置する。構造体の 天頂に向けて人工太陽照明灯を 照射し、照射前と30分間照射後 のブラックパネル温度から上昇 温度ΔTを求める。同様に空試 験を行い得られた結果から遮熱 率(%)を求める	—	・ブラックパネル温度は2分毎に測定し、 照射時間-上昇温度曲線を作成 ・基準値を設定せず遮熱率のみ表示
保温性	冷気槽と試験槽とに分けられた 装置の中央に45cm×40cmの試 料を取り付けた試料枠を設置し、 冷気槽、試験槽共に25°Cに設 定。冷却装置を用いて冷気槽内 を冷却し、試験槽の冷却前と60 分冷却後のセンサーの温度から 下降温度ΔTを求める。同様に 空試験を行い得られた結果から 保温率(%)を求める	—	・アウターテント・インナーテントを組み合 わせて測定する場合は、装置の中央に 5cm間隔を空けて試料(冷気槽側にアウ ターテント地、試験槽側にインナーテ ント地)を取り付けた試料枠を2枚並行に取 り付ける ・センサーの温度は5分毎に測定し、冷却 時間-下降温度曲線を作成 ・基準値を設定せず60分後の保温率を 表示
遮光性	JIS L 1055 A法準拠 照度 1000 lx	—	・照射方向はインナー側からアウター側 に向けて測定実施(夜間照明が付いた テント内を想定) ・基準値を設定せず、遮光率のみ表示
紫外線遮蔽率	JIS L 1925	—	・基準値を設定せず、紫外線遮蔽率のみ 表示